

5 特別活動と年間指導計画

特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校・学級の実態や生徒の発達段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすることが大切である。また、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫することも必要である。特に、キャリア教育との関連においては、社会の一員としての自覚と責任に関連する事項や、学ぶことと働くことの意義の理解、主体的な進路の選択と将来設計など学業と進路に関連する事項などを考慮しつつ、学級活動、生徒会活動、学校行事におけるねらいとキャリア教育の視点を有機的に関連付けて計画を立てることが望ましい。

(1) 中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例

次の表は、中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連の深い主な目標・内容等の例である。
(国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年度増補版より抜粋)

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

2 内容

(2) 適応と成長及び健康安全

ア 思春期の不安や悩みとその解決

イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

ウ 社会の一員としての自覚と責任

エ 男女相互の理解と協力

オ 望ましい人間関係の確立

カ ボランティア活動の意義の理解と参加

キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

ク 性的な発達への適応

ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(3) 学業と進路

ア 学ぶことと働くことの意義の理解

イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用

ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用

エ 望ましい勤労観・職業観の形成

オ 主体的な進路の選択と将来設計

〔学校行事〕

2 内容

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (2) 生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。
- (3) 学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう〔学級活動〕等の指導を工夫すること。特に、中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活ができるよう工夫すること。

(2)特別活動の年間指導計画の具体例<第2学年>

特別活動では、特に『中学校学習指導要領』に示された学級活動の内容(3)として「望ましい勤労観・職業観の形成」を示すとともに、人間関係の形成や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫することとされている。

時期	時数	主な学習活動	キャリア教育との関連	教科等との関連
4月	1	「学級組織づくり」 学級内の組織づくりをして仕事の分担をする。	仕事の分担などを通し <u>集団や社会の一員としての自覚と責任をもつ。</u>	<国語> 「A話すこと・聞くこと」 (1)オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。
	1	「生徒会への参加」 生徒会の計画や運営に参加する。	<u>自分の適性や個性を知る。</u>	<道徳>「役割と責任」「個性の伸長」 <総合的な学習の時間> 「職業について理解しよう」
	1	「自分を知る」 適性や個性を知る。		
6月	1	「働くことの意義を考える」 学ぶことや働くことの意義を理解する。	学ぶことや働くことの意義の理解を通して、 <u>社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度の育成を促す。</u>	<道徳>「勤労・奉仕」 <道徳>「礼儀」 <国語> 「A話すこと・聞くこと」(1)オ 「B書くこと」(1)イ
	1	「職場体験活動」 職場体験活動の準備		<総合的な学習の時間> 「未来への一歩」 「職場体験活動」

6 各教科等を横断的に見た年間指導計画(一覧)

キャリア教育は、教育活動全体を通じて取り組むものであり、各教科等による単独の活動だけでは効果的な教育活動は期待できない。そこで、学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性に留意の上、有機的に関連付け、発達の段階に応じた創意工夫ある教育活動を展開する必要がある。そのためには、各教科等において作成した指導計画を一覧として整理し、学年・実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動・評価等を確認できるようにすることが望ましい。

年間指導計画の例(第2学年)

時期	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	教科
4月	「2年生になって」 ○自己紹介 ○委員会・係決め ○自己及び他者の個性を理解し尊重する。	「職業調べⅠ」 世の中の職業について調べる。	2-(5) それぞれの個性や立場を尊重する。	国語：「調べたことを発表しよう」 社会生活の中から話題を決め、情報を集めて、スピーチや文章で発表する。 体育：「陸上競技」 競技への取組を通してルールやマナーを守り自己の役割を果たそうとする意欲を育てる。
5月 6月	体育大会	「職業調べⅡ」 身近な人にインタビューし働くことの意義について考え、発表する。	2-(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	
7月	夏休みの計画を立てよう			
9月	「2学期の目標」 ○自己の目標をもち、後期委員会、係決めを行う。	「職業調べⅢ」 ○職場体験に向けて、事業所の方々からの講話を聞き、体験先を決める	3-(3) 人間には強さや気高さがあることを信じて生きることに喜びを見いだす。	理科：「磁石の性質」 リニアモーターカーの開発等、人間の生活とのかかわりについて認識を深める。
10月		「職場体験Ⅰ」 ○体験活動を行う 「職場体験Ⅱ」 ○職場体験新聞を作成する	4-(5) 勤労の尊さや意義を理解する。	英語：「情報を伝える」 ペアワーク、グループワークを通して、円滑にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
11月	学習発表会	○職場体験新聞の発表を行う		
12月				



1月	「3学期の目標」 最高学年への自 覚を持ち、自ら の進路について 考える。	「上級学校について調 べる」	1- (5) 自己を見つめ向上を図 り、個性を伸ばして充 実した生き方を追求す る。	美術：「自画像」 今の自分を様々な色と 形で描くことで、見つ め直し、将来の自分を 展望する。
----	---	-------------------	--	---

コラム

横断的な指導の進め方

教育活動全体でのキャリア教育を計画的に実施していくためには、特定の校務分掌や学年担当の教師にだけ任せるのではなく、全教職員が連携・協力して諸活動を体系化し、計画的、組織的に横断的な指導に取り組むことが大切です。

そのためには、教職員一人一人が各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動をはじめとする様々な教育活動や、学校での日常生活における指導において、キャリア教育の視点をもつことがポイントとなります。

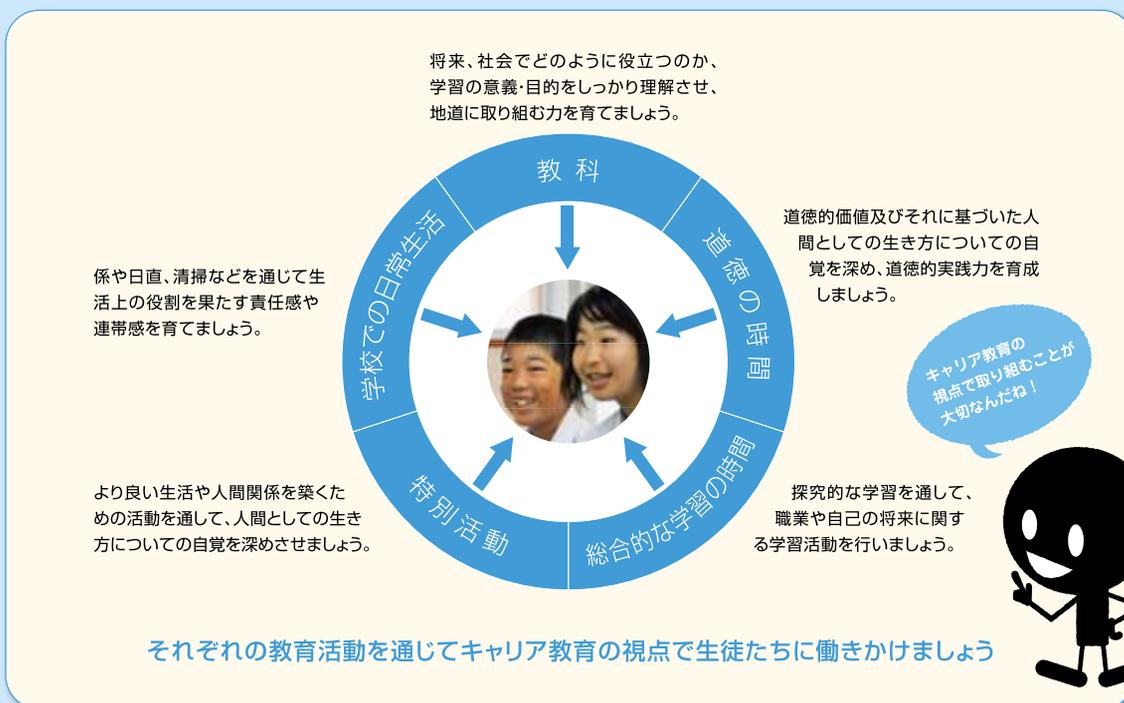
例えば、学級担任が担当する教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動をキャリア教育の視点でつないで授業展開することが考えられます。

また、複数の教職員が各教科間をキャリア教育の視点を持ち、連携した指導をすることで、横断的な指導の展開が期待できます。

さらに、こうした教育活動をキャリア教育の全体計画・年間指導計画として示し、定期的に検証・改善を図っていくことで、組織的・計画的に横断的な指導を進めることができるのです。

それぞれの教育活動を通じたキャリア教育

キャリア教育の視点で生徒たちに働きかければ、教科や道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動、学校での日常生活といったそれぞれの教育活動を通じたキャリア教育を展開することができます。たとえば係や日直、清掃なども、生活上の役割を果たす責任感や連帯感を育てることでキャリア教育の活動になるのです。



国立教育政策研究所『自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育』平成21年

7 進路指導と年間指導計画

進路指導の年間指導計画の作成に当たっては、これまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点からとらえ直し、年間指導計画の在り方を見直すことが必要である。

第1章第2節で詳述した通り、進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路計画・選択をし、進学又は就職に結び付けていく指導である。また、進学・就職後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように、教職員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。このことは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じである。

しかしながら、これまでの進路指導の実践は、ねらいを必ずしも反映したものではなかった。例えば、進路指導担当の教職員と各教科担当の教職員との連携が不十分であったり、一人一人の発達を組織的・体系的に支援するといった意識や姿勢、指導計画における各活動の関連性や系統性等が希薄であったりして、子どもたちの意識の変容や能力や態度の育成に十分結び付いていないといった状況が見られた。さらには、「進路決定に偏った指導」や「出口指導」などといった指摘も受けている。

そこで、キャリア教育の視点から、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが、系統的に展開され、将来、社会人・職業人として自立し、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していけるよう、規範意識やコミュニケーション能力など、幅広い能力の形成を支援することを重視した年間指導計画の作成を進めることが必要である。

(1) 進学指導・就職指導とキャリア教育の関係

キャリア教育は、子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育てる教育である。したがって、キャリア教育は、幼児期から小・中・高等学校、成人に至るまで、それぞれの発達の段階に応じた実践を通して推進するものである。一方、進学する上級学校の選択・決定や入試での合格を目指した指導、就職先の選択・決定や就職試験での合格を目指すための指導(ここではこれらの指導を「進学指導・就職指導」と呼ぶことにする)は、中学校・高等学校における、いわゆる「出口指導」としてとらえられやすい状況がある。下記に示すアンケート結果からもわかるように、生徒や保護者が「個性や適性を理解するための学習」など、キャリア教育が重視する内容の充実を望んでいるのに対して、いわゆる「出口指導」だけを保護者が期待していると思っている教職員は少なくない。学校では、これまで以上に自信と誇りをもってキャリア教育を推進し、生徒一人一人が主体的に卒業後の進路選択・決定ができるよう、ねらいを明確にした進学指導・就職指導に取り組んでいく必要がある。

キャリア教育推進に対する生徒・保護者の大きな期待

●教師にアンケート

中学校の進路指導に対する悩み ワースト3



- 保護者の進路指導に対する期待が進学先の選択やその合格可能性に偏っている **41.3%**
- 生徒の進路意識や進路選択態度に望ましい変化がみられない **27.9%**
- 進路学習を実施する十分な時間が確保できない **25.9%**

●保護者にアンケート

中学校の進路指導への期待 ベスト3



- 学ぶことや働くことの意味を考えさせる学習 **26.9%**
- 自分の個性や適性を理解するための学習 **26.7%**
- 適切な進路選択の考え方や方法についての学習 **20.0%**

●中学3年生にアンケート

生き方や進路について考えるために指導してほしいこと ベスト3



- 自分の個性や適性を考える学習 **46.2%**
- 高等学校など上級学校や企業への合格・採用の可能性 **33.3%**
- 将来の生き方や人生設計 **28.9%**

●前年度の中学卒業生アンケート

生き方や進路について考えるために指導してほしいこと ベスト3



- 自分の個性や適性を考える学習 **50.9%**
- 進路選択の考え方や方法 **37.3%**
- 高等学校など上級学校の教育内容や特色 **32.9%**



生徒・保護者が「個性や適性を理解するための学習」など、今日のキャリア教育が重視する内容の充実を望んでいるのに対し、いわゆる「出口指導」だけを保護者が期待していると思っている先生方は少なくありません。私たちはキャリア教育の推進にもっと自信と誇りを持つ必要がありそうです。

国立教育政策研究所『自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育』平成21年

(2)進学指導・就職指導の計画を組み込んだキャリア教育の具体例

進学指導・就職指導の目標は、生徒一人一人が自分の個性や適性を理解し、適切な進路選択を主体的に行うことである。したがって、指導に当たっては、生徒一人一人を理解し、中学校第1学年の段階から発達に応じた指導を意図的・計画的に行っていくことが必要である。

しかしながら、具体的な進学指導・就職指導については、中学校第3学年を中心に行われていることが現状として多く見られる。

そこで、キャリア教育の視点から、生徒一人一人のキャリア発達を支援し、小学校で培われてきた能力や態度を土台として、中学校第1学年の段階からきめ細かく温かく支えることが必要である。生徒一人一人が将来の夢や職業を思い描きながら自分の個性や適性を理解し、主体的な進路選択につなげていくことが望ましい。

